

飯塚青年会議所のこれまでとこれからについて考える。

68

THE VOICE

IIZUKA NEWS vol.68

2023 JANUARY

Jci Iizuka
PR Magazine

CELEBRATING
70th
ANNIVERSARY

来たる70周年。

JCI飯塚70周年特別企画

会頭 × 理事長 × 直前理事長 三者特別対談

「JCI飯塚で得られることとは」 p01 ~ p04

Junior Chamber International Iizuka 70th Anniversary



一般社団法人 飯塚青年会議所
2023年度 第70代 理事長
多賀谷 勇気

公益社団法人 日本青年会議所
2023年度 第72代 会頭
麻生 将豊

JCI飯塚に入会し自己成長へと繋がったと思うところはあったか？

麻生会頭：青年会議所に入って義務や責任を果たそうとすると、自然と様々な能力がついてくるが、これはやっていないと身につくものではないんですよ。しっかりとやるかやらないかがとても大事なことです。例えば、青年会議所でよくある話として「青年会議所に入ると仕事とJCI活動を両立するために色々と工夫するため時間の使い方がうまくなる」というが、これは一理あると思います。そのほかにも、会議を行う力であったり、青年会議所活動を経験することによって自然と能力がついてくると思います。

多賀谷理事長：はじめは青年会議所の役割のなかで何もできなくても経験を繰り返すことでいろいろな考えが浮かび、能力がつき出来るようになっていく。これは何の為にやるのか誰の何に突き刺さるのかなどしっかりと考え込まれる経験を積みますし、そもそも同世代の様々な経営者と深い話が出るだけでも素晴らしい機会になります。

外山直前理事長：訓練の場であると思う。役を受けることで挨拶をする機会も増え、挨拶ひとつにしても試行錯誤しながら場数を踏むことで訓練され、きちんとした挨拶ができるようになる。青年会議所には「場数」と「機会」がたくさんあるので、「この「場数」と「機会」を活かすことで自己成長へ確実に繋がると思う。」
青年会議所は属に「大人の学校」と言われ

るが、楽しくないと行きたくないなどの想いはあるかもしれないが、出てくることでチャンスが増え、それを自ら掴むことで何かに繋がる。

**人に対しての接し方が変わった
りしたか？**

麻生会頭：変えたつもりもないし変わった実感はないが、先輩たちから教わったことや、経験したことを踏まえて自然と変わっていったのではないかと。今の若い子たちはその場に得るものがあるのかどうかで判断をしていると思う。たとえば、最近の若手社員が言う「飲み会は残業なのですか？」と同じようなことで、その場に行くことによってなにか得るものがあったりして、無駄のようなことかもしれないが実は無駄ではないと教えるのが青年会議所なのかなと思う。
多賀谷理事長：まずは私自身が大きく変





(一社)飯塚青年会議所70周年

会頭 × 理事長 × 直前理事長 三者特別対談

来たる、70周年

JCI飯塚で得られることとは



一般社団法人 飯塚青年会議所
2022年度 第69代 理事長

外山武志



わりましたし、それに伴って接し方も当然大きく変わったと思います。順番として、まずは自己成長ですね。

懇親会の価値とは？

麻生会頭：理事会できつい意見を言われても、懇親会での意見に対するフォローをすることで、次の理事会に挑む準備ができる、そのための懇親会だったので懇親会に行ってみて良かったと思う。また仕事もプライベートも関係がない人と交流する機会になりえるので、懇親会でしか話ができない人もいたりする。

多賀谷理事長：入会して間もない時はどのような意見をしていいかわからず委員会などで話す機会がなくても、懇親会でざつとばらんに話をするので、馴染んでいく機会になる。また役を受けているメンバーや歴の長いメンバーでは今後の理事会対策など深く話すいい機会になるので懇親会という場は必要だと思う。

外山直前理事長：意外と懇親会の場で良いアイデアがでたりする。

入会して社業に活かされていることはなにか？

麻生会頭：覚悟が決まると思う。会社はすることによる報酬のため、マイナスになつたらどうしようなど悩むことはあるが、青年会議所は全てにおいて無償で活動しているので、「報酬がないのになぜ真剣に行くのか？」と思つた時点で覚悟が決まっているのではないかと。また理事会の場で色んな経営者などがあるなかで自分の考えを話すため、発言力は確実についていると思う。

多賀谷理事長：私の場合は、仕事・プライベート・遊びをあまり分けていないので、全部同じように頑張ろうと思つているので難しいが、シンプルに自信がつくと思う。理事会などの会議の場で、自分の意見が通つたり、話し方ひとつで相手の嫌な立場の人と話をしつたり、いろいろな立場の人と話をしていくことで、さまざまな場に対応できる力と自信をつけることができるのが青年会議所で得られたものだと思う。

外山直前理事長：直接的なメリットとして取引を始めた企業もあるが、間接的なメリットが大切に常に頭を使って考えているので、思考力や判断力などが徐々にレベルアップしていると思う。商談を行う時にも話の展開が早く以前よりも商談もまとまり企業メリットを感じている。また青年会議所でいろいろな経験をしてお陰で失敗が減つたように感じる。

JCI飯塚の活動に対してどのように向き合ってきたのか？

麻生会頭：先輩たちに指導してもらったことや、委員会メンバーへの成長を願ったの義務感、またみなさんへの恩返しへの気持ちでやってきた。先輩たちから「JCIとは」などを教えてもらったが、それを伝えられるのは後輩メンバーになるので、そのために活動してきた。意識的にしているのではなく、責任を果たしてきた。

多賀谷理事長：一生懸命やってきた。入会してノウハウを覚えてもらい、委員会出席など責任を果たすために時間を費やし努力し向き合ってきた。

外山直前理事長：青年会議所メンバーになると役を持つている持っていないに関わらず各々の役割があるため、自分の役割をやってきた。特に役職にこだわりがなかったで、与えられた役割に対して向き合ってきた14年間だった。

**コロナ前とコロナ禍で青年会議所活動がどのように変わったか？
(理事長経験の中で決断を迫られた事なども含め)**

麻生会頭：私が理事長をした時はコロナが始まった年だったため、全てをやめさせる方向でスタートした。人を集めての会議が無理、こんな状況で新入会員の拡大は難しいのでやめさせる、会費納入やめさせるなどやっていった。その時の対応としては、世の中の対応とズレが生じていないかを見ながら対応をしてい



た。しかし、青年会議所活動を100%止めることはなしだと思っていたので、例会だけは行おうという想いでZoom例会を始めた。昔は対面でやるのが当然だったが、今後はWEB会議ということもあるだろうし、便利なツールは残っていくと思うが、コロナによってできた歪みはあると思うので、来年以降、多賀谷理事長が正していくことで元に戻っていくのではないかと思う。

多賀谷理事長：失われたものは多いが得たものもあった。それらをうまく組み合わせ常に時代に先駆け取り組みたい。

外山直前理事長：変わったことといえば、この2年間はWEB会議などを取り入れコロナに対応してきたが、結果的に従来通りになると思う。しかしながらWEB会議でできるものはWEBでしようなど便利なものは残っていくと思うが、基本的には対面になっていくと思う。なぜなら、仕事によっては可能かもしれないが、青年会議所活動においてはWEBのみは無理なので、便利なものは残しながらも従来通りになっていくと思う。

JCI MEMBER SPECIAL TALK



今後2市1町がどのようなまちになって欲しいか？

(麻生会頭：会頭としてJCI飯塚にどう落としこんでいこうと考えているのか？)

(多賀谷理事長：70周年という節目でJCI飯塚として、町とどう関わっていくのか？)

(外山直前理事長：2022年度自分が大事にしてきたことや残してきたことは？)

麻生会頭：日本青年会議所は「日本全国のLOMの総合連絡調整機関」と言われている。その本質を感じてもらおうと思っている。全国684LOM(2022年時点)のみなさんに日本青年会議所の運動を判断していただき、本当に必要なものや、LOMで活用できるものを提案し実際に活用してもらうことが来年の課題の一つと考えます。そして日本青年会議所国際グループを筆頭グループに置いています。日本のサービスやコンテンツなど、私たちには普通のことでも海外から見たら素晴らしいことで、そのような日本の魅力を地域グループと連携し海外にPRしてきます。そうすることでLOMに還元できると考えます。なぜなら地域の魅力をPRしていくことでLOMがある地域に観光客が訪れたりなどが起り、今までとは違った形でLOMへの還元も行っていくと思います。また会員拡大に関しても本会の会員拡大担当者からLOMへの講演を行うなどして、協力できるように考えています。

多賀谷理事長：70周年という節目において我々JCI飯塚が頂いてきた恩に報いて感謝を伝えるというスローガンを実行するべく、あらためてこの地域に根差し、この地域に明るさと豊かさをもたらす団体だと示せるよう取り組みを行います。大いなる感謝を胸に抱き、これからも我々がこの地域に必要とされる存在であるよう活動を行なって参ります。外山直前理事長：今年やったことに関しては来年以降の判断になると思いますが、「この2市1町がどうなってほしいか」ということに関しては意識して理事長所信にも書くけれど、一言一言の意味を考えた際に自分なりの結果はであるが、多くの選択肢があることでさまざまな可能性が生まれるので、多くの選択肢を導き出す必要があると思う。



70th ANNIVERSARY



一般社団法人 飯塚青年会議所
2022年度 第69代 理事長

外山武志

TOYAMA TAKESHI



一般社団法人 飯塚青年会議所
2023年度 第70代 理事長

多賀谷勇気

TAGAYA YUUKI



公益社団法人 日本青年会議所
2023年度 第72代 会頭

麻生将豊

ASO MASAHIRO

感謝 KAN-ON HOUSHA 報謝

過去の恩を未来へ報いて
感謝の輪を広げる

一般社団法人 飯塚青年会議所
2023年度 第70代 理事長

多賀谷 勇気 TAGAYA YUUKI

事業計画

- 創立70周年記念式典および記念事業の実施
- 共感し共に歩むビジョナリーシティ策定 ■ 持続可能な明るく豊かな地域の開発
- 次代を担う多種多様な人財の開発 ■ アカデミー共成事業の実施
- 挑戦こそ使命(例会(システム革新・家族の支え) 総会運営
- 感謝の輪を広げる会員拡大 ■ 新春祝賀会、忘年会の運営
- 台東国際青年商會との継続的な国際交流
- JCI飯塚全体で取り組む山笠運営



はじめに

この度私は、70周年という大きな節目を迎える一般社団法人 飯塚青年会議所(以下、JCI飯塚)の舵取りを担う重責を拝命いたしました。目まぐるしく移り変わって現代において、我々青年経済人が地域社会に担う責務の大きさを胸に刻み「明るい豊かな社会」の実現を目標と掲げ、JCI飯塚として様々な地域課題の解決に貢献し、地域の発展へと繋げてまいります。

感恩報謝の精神

皆様は、人から恩を受けた時、または感じた時、その恩をどのように相手に報いていこうと考えますか。感恩報謝、私はこの言葉の意味を「恩に報いてはじめて感謝と成る」と解釈していました。さらに、この言葉の意味には「頂いた恩に最高の礼をもって報いること」というものがあることを知りました。私はその意味を聞いて少し違和感を覚えました。それは、私が先輩や地域の方々から頂いた恩は、とても直接その方々に報えるようなものではないと感じたからです。私は、JCI飯塚に入会させて頂いてからこれまで、本当に多くのお出合いや気づき、学びや挑戦ができる機会を与えて頂きました。その恩の大きさは、その方々に直接報えることができるような大きなものではなかったのです。では、どうすれば恩に報いて感謝を伝えることができるのか。私は、頂いた恩をその方々に直接的に返すのではなく、次に贈ることでその恩に報いることに繋げられるのではないかと考えました。「報いる」という言葉に報せるという意味があるように、これまで大きな恩を頂いた私が、今度は私自身が報いることのできるメンバーや地域の方々、少なくとも頂いたもの以上の恩を齎していくこと。そうすることで、頂いた恩はより大きな力となり、何よりそれをまた誰かへ繋いでいくことで、さらにその感謝の輪を大きくしていくことに繋がるのではないかと考えました。これこそが、私が恩返しをしないと叫びたい方々に対する最大の恩返しとして受け取って頂けることと確信し、本年のスローガンとして掲げさせて頂きました。本年度、JCI飯塚のメンバーにはこの感恩報謝の精神をしっかりと共有して頂き、受けてきた恩の輪をどこまでも広げていけるよう共に活動してまいります。

45年間の時を経て

本年度、JCI飯塚は約45年ぶりに公益社団法人 日本青年会議所(以下、JCI日本)の会頭を輩出して頂くという機会に恵まれました。これは地域に特化したJCI飯塚のローカルな活動と、世界を見据えたJCI日本のグローバルな活動を直結させることができる、最大のチャンスであるということ。同時に、我々の同志である麻生会頭が、世界に先駆け活躍するステージで細かな情報や経験、リアルタイムでこの地域に落とし込むことができるという千載一遇の好機を得た年度でもありません。本年度、JCI飯塚は70周年という激動の歳月を経て磨き上げられてきた歴史を『地域そのもの』とし、JCI日本のビジョンにもある「地域に根差し、国を思い、世界を変えよう」というパワーは我々を後押しする『大きな輝き』であると捉え、この地域をより広く明るく照らしているよう活動することこそが、我々に与えられた使命だと確信し、力強く活動を推進致します。

創立70周年記念

先述したように、本年度は創立70周年の節目を迎えます。過去に諸先輩方が築き上げられてきた70年という偉大な礎の上に、我々現役世代は立たせていただけているということに深い感謝と敬意を示し、我々の活動を未来へ繋げる盛大な事業として成功へ邁進します。本年度、JCI飯塚は対内的な事業である創立記念式典と、対外的な事業としての記念事業の2つを計画しております。まず、創立記念式典では多くの諸先輩方と同志の方々、これまでの歴史とこれからのビジョンを共有することができる厳粛かつ盛大な式典とし、これからの活動へと繋げていけるよう運営を行います。また、記念事業ではこれまでの歴史の中で関り頂いた方々のみならず、この地域内外の多くの方々にも感謝を伝えられる事業を行います。我々JCI飯塚が総力を結集し、「お祭り」として記念事業を行うことでこれまでの方々には感謝を。これからの方々にはJCI飯塚を知っていただく機会とし、この地域の方々と共に盛大に行えるよう取り組みます。

ビジョナリーシティ策定計画

あまり聞き馴染みのない言葉ではあると思います。これは、JCI日本が推進しているJCIの中期ビジョンをそれぞれが活動する地域の方々と共に共有し、まちのビジョンとして共に発信し解決しようという取り組みです。我々は「明るい豊かな社会の実現」を長期、理事長所信を短期的ビジョンとして定義付けています。ではJCIに、またはこのまちに、共有できる中期のビジョンは必要ないのかという問いと答えは否です。我々が今まで行っていた短期ビジョンの策定はJCIが主語になりがちで、まちや人のためというその考えは地域と明確に共有できていたとはいえないものでした。このまちの、それぞれの特徴やホルダーの方々と一緒にこの地域の未来を描き、共感をもって取り組むことで人の心を動かし、行動を変えたいと考えます。本年度は、このまちの方々と共に策定したこのまちの中期ビジョンを創立記念事業などでも発信し、共に歩みを進めているよう取り組みます。

持続可能な明るく豊かな地域の開発

まちは人を育て、人はまちを育てさせます。そのまちづくりにおいて、今も昔もそれぞれの地域で多種多様な挑戦が行われ、それぞれの成功やそれぞれの失敗を繰り返しています。ではなぜ人はそれに挑戦し続けるのでしょうか。それは、まちが衰退または魅力のなくなってしまう地域では、よいづくりに結びつけることができなからず、では、地域の魅力とは何かと考えると、それは人と人の距離感だと思えます。SNSやインターネットの書き込みでは感じるような温かみを感じることができない人の温かみです。これからはメンバー間の書き込みではなく、コミュニケーションの在り方がみ出されていくのだと思います。これはそういったものを否定するためのものではなく、仮想やネット上にはない現実空間の良さ、すなわち人の温かみを感じる持続可能な地域の魅力を開発することで、この地域を元気づけ、訪れてみたくなるような、帰りたいような、そういう地域になるよう取り組みを行うということです。まるで友達の家であるかのような、ホスピタリティの溢れる地域になるよう担っていくことでまちの魅力は高まり、人の温かみをもった人財がこの地域からどこまでも羽ばたいていけるよう、目標は高く、必ずそうなることを確信し事業構築を行います。

次代を担う多種多様な人財の開発

すべての人が、平等に無知なその時々を経験し今に至っています。時間は等しく平等に与えられますが、機会に触れる時間は平等でしょうか。私は、多くの様々な子どもたちが多くの経験を積み、より早く様々なことに気付けるようになり、そういった機会に多く触れることが出来れば、挑戦していく過程でも大切なことだと考えています。何ができないから、何が出来るからと人を決めつけ機会を奪っていませんか。しかし、私はすべての人間が等しく機会に触れることは不可能なのだと思います。ですが、ダイバーシティやジェンダーフリーなどに代表される現代社会が目指す多種多様な生き方、働き方が叫ばれる中において、子どもたちにどんな人間でもそういう社会では活躍することができるんだということをしかりと学んでいただき、それに気付ける機会を増やすことを我々が率先して創出していかねば、次代を担う大いなる可能性をもった多くの子どもたちは、それに気付ける機会にすら触れられないと思うのです。そうならならぬために、日々の日常だけでは学ぶことができない多種多様な考えに触れ、自分の可能性を引き出すことができる機会を設け、「わたしには可能性がある」それを自覚できる機会を増やしていくことで、次代を担う人財の開発へと繋げます。

アカデミーメンバー(新入会員)との共成

JCメンバーとして、アカデミーメンバーと聞いてどういった印象を抱きますか。誤解を恐れずいって、私は、なんとなくJCIに対し知識も少なく関心が薄い存在だと感じ、特に頼ることも理解し合おうとすることもなく接してきました。これがJCメンバーが同志たるJCメンバーと対峙した時に抱く心情だったのです。では、その考えはどこから生まれたのでしょうか。長くJC活動に関わっていると独自の成長スキルがあり、一般の社会では考えられないような試練に見舞われることがあります。そういったことを繰り返していくことで、いつの間にかJCの当たり前を自分の当たり前として受け入れてしまっていたことが、原因だったのではないかと考えました。入会して間もないからこそ、JCIに対しての知識が少ないからこそその意見を拾い上げるチャンスを失っていたのです。我々が行うまちづくりやひびくりに関して、新しい価値観やまったく違った角度の意見を取り入れていかねば、それは多様性をもった活動とは程遠く、なにより今まで軽くみていた意見が実は、モノの本質であった可能性があったはずでは。本年度はそのことを我々メンバー自身が深く理解し、その機会を率先して創出し、共に成長していく1年とします。今こそ改めて「こうあるべき」「そうあるべき」といった自分の当たり前を拭き取り、本来の個性がもつ素晴らしさを、アカデミーメンバーと共に追求したいと考えます。

例会運営

これまで例会というものは、対内活動の一環として時の理事長の話や拝聴し、様々な活動報告を行い、アワーを通じて成長や気づきを得られる時間として過ごしてきました。しかし実際に運営する担当委員会の負担が過度になり、また年11回を重ねる事業として趣向が偏ってしまっということがありました。当たり前に。それはどの作業も1年間繰り返さなければならぬ状況で、新しい発想を取り入れ続けることなど容易にできるはずがありません。また、例会委員会の事業であるが故に参加する他の委員会メンバーも、どこか招待を受けているように誤解をさせてしまっていたのではないかと考えられました。そこで本年度は、各委員会にアワーの構築を分担し、例会委員会は厳粛な例会の式典の運営を行いながら、例会委員会も各委員会もそれぞれが自身の事業目的に沿ったアワーを行い1年間活動してまいります。これは挑戦です。色々な意見があると思います。しかし、時代や環境の変化に柔軟に対応していかなければならない現代において、挑戦こそ我々がやらなければならない最大の使命ということを自覚し、取り組まなければならないと思います。また、青年経済人が一堂に会する貴重な場を活かしたスケール感のある例会とするためにも、しっかりとアワー内容についても審議を行い、JCI飯塚たる所以を引き出せる場と致します。そして、例会委員会においては普段の我々の活動を支える家族や友人、社員の方々などに感謝を伝えることをテーマとしたアワーを行うと共に、近年取り組み続けてきた運営システムの向上に取り組めます。

感謝の輪を広げる会員拡大

毎年、必ずといってよいほどの議論が取り沙汰されます。それはこの問題がそれほど我々にとって重要な問題であるということだからです。現在日本国内には約684のLOMがあり、そのうち約400のLOMは30名以下のメンバー構成となっています。ここ数年JCI飯塚では100名前後の構成を維持しておりますが、全国的にみれば100名を超えるLOMは全体の15%程度と限られたものになっています。そして、会員数に伴った会費からなる地域事業に還元できる費用も、簡単に説明できる計算としてその違いは一目瞭然です。また、このメンバーの数から得られる効果は、単純にその数の分だけ互いの成長や気づきの機会に恵まれるということです。逆に一時でも会員数の減少を許してしまうと、その機会が失われるということもありません。そうならば、我々は恩を受け取る機会も、恩に報いる機会も失ってしまい、感謝の輪を広げるところがあまりない豊かな社会に向けて立ち向かうことすら危ぶまれることになり、時間は有限です。限られた時間の中でどれだけ多くの機会を創出し、多くのメンバーと時を共有できるかは我々の努力次第でコントロールできるのです。より多く恩に報いるためにも、より多くの機会を生み出し、より多くのメンバーと関わる機会を生み出さなければならないのです。本年度はアカデミー育成と拡大活動を分離させることでその担いを明確化し、少数精鋭で会員拡大の道切り開いてまいります。

最後に

冒頭にも述べましたが、本年度JCI飯塚は70周年という大きな節目を迎えます。この70周年という時間の中でいいたいこと、議論、討論が繰り返され、どれだけの人間の成長を生み出し、どれだけの想いが交錯してきたのか。想像するだけでも胸が熱くなる想いです。きっとそれは、それだけの感恩報謝の想いが交錯してきた歴史でもあったのだと思います。そして、これからもJCI飯塚を80年100年と発展させ続けるために、我々現役は輝く個性が調和する持続可能な地域の実現に向けて挑戦し続けていかなければなりません。組織において「変えてはいけないもの」「変えてもよいもの」「変えなければならないもの」の3つをしっかりと意識し、覚悟と責任をもって時代に先駆けした改革を行っていくことで、より強く魅力的な組織へと変革を図り、この地域に必要なこととされ続けるよう感恩報謝の精神を心に刻み、メンバー共々邁進していくことを約束申し上げ、本年度の所信表明とさせていただきます。

ACTION PLAN
アクションプランはこちらから▶



公益社団法人 日本青年会議所
2023年度 第72代 会頭

麻生 将豊

ASO MASAHIRO



はじめに

ある先輩がLOMで挨拶されるときに必ずと言っていいほど言われることがある。「なぜお前は現実的なことばかりやって夢を語らないんだ。自分たちはこの地域を少しでも良くするために無謀と思われることも夢を真剣に語り合って、実現してきたのに。」

子供のころ私たちは将来の夢がありました。スポーツ選手、戦隊ヒーロー、医師、弁護士……。しかし、大人になつて僕たちは現実と触れ、そんな夢について現実を言い訳に実現可能なものへと無意識に変化させてきました。青年会議所においてもこれは同様で、入会当初は無謀なことを様々な形で実現しようとして、在籍年数が増えるにつれて、経験則から実現可能なものやリスクが低く単年度で達成可能なものを後輩に選択させるよう誘導してしまい、無謀とも思える挑戦を避けさせるようになってしまったように感じます。それが悪いとは思いませんが、先輩たちが持っていた情熱からその熱量が低くなくなっているのではないのでしょうか。

事実、私自身も経験を経るにつれ、よく言っていたのは「それは現実的に難しいから、こっちは変えよう」「それは出来ませんが、検証ができそうならいからこっちは良い方良い方」と、リーダーではなくマネージャーとして、夢ではなく1年間という短い期間で達成感があり実現可能なものを選択させるような動きをしてきたように思います。青年会議所は本来リーダーを育成する団体であるにもかかわらず。

では、リーダーとは何なのでしょう。辞書でこの意味を調べると、先導者や統率者という言葉が出てきます。そのなかで、共通することは誰かを導くということです。確かに、実際に達成できることに導いているという点では成長しているのかも知れませんが、本当に未来を見据え、地域をそして日本を明るい豊かな社会へ導くという点では、1年間の中で結果を出せることに終始してしまい、マネージングのプロを無意識のうちにリーダーとして扱ってしまっているのでしょうか。

本来、リーダーとは夢を語り、進むべき方向を示し、皆をそちらへ導く人なのです。青年会議所は日本を明るい豊かな社会にする団体です。だからこそ、我々青年会議所に所属するメンバーは自分たちが夢を描く最高の未来を創造し、その夢を現実にするべく全力で語り合い、それを実現できるように導けるリーダーとなるべく自己研鑽し、先輩たちを導かなくてはならないのです。

1. 青年会議所とは

そもそも青年会議所とは何をする団体なのでしょう。設立趣意書を読むと「相互の啓発と社会への奉仕を通じて、全世界の青年と提携し、経済社会の現状を研究して進むべき方向性を明確にし、経済界の強力な推進力となり、日本経済の発展に寄与する。」と明記されており、「新日本の再建は、我々青年の志である」という志を立て、「国内経済の充実と国際経済との密接なる提携である」と組織の運動の方向性を示しています。つまり我々は日本経済の発展に寄与する団体であり、その手法としてメンバーが集い、相互啓発と社会への奉仕を通じて、世界的な経済社会の仕組みを学ぶのです。

「明るい豊かな社会」の定義は時代と共に変化してきました。戦後直後、日本の復興を目指した時代は、テレビ、洗濯機、冷蔵庫と言われる、いわゆる電化製品三種の神器が家庭にあることが人間の幸せの象徴であるようにマスコミがキャッチコピーとして使った時代であり、それが当たり前になった現代社会から見ると大きくかけ離れています。現代においては、LGBTQ+に始まる人間の個性や人格を尊重する社会や、SDGsの推進による持続可能な世界を指す国際目標が国連により制定されたこと、個人だけでなく全体を理解して全ての人が一定以上の幸せを感じられる社会にならざるを得ない状況に変化しています。日本青年会議所でも、2020年〜2024年のストラテジックプランを制定し、「地域に根差し、国を想い、世界を変えよう」というビジョンの下、現在様々な形で今後の日本をどのようにすれば良い社会を未来に託せるのかを必死に考えながら1年を邁進しています。その中で、青年経済人としての知見と、子育て世代を多く抱えた団体として、常に時代の変化に対応し、その時々求められる我々にとって最も幸せであり発展させられる方法を思い描き提起していくことで、日本を明るい豊かな社会にしていこうと我々青年会議所だと私は考えます。

2. 全てを変えてしまった現実があるからこそ

2022年現在は当たり前が当たり前でなくなつた時代を迎えています。2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症によるパンデミックによって今までの日常は消え去り、社会の様相は一変してしまいました。最近になり、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除されたことで、徐々に日常生活は取り戻しているのかわりに言われ始めていますが、私はそうは思いません。何も気せず友人と集まって食事をしたり、JC活動ができたりしていた時代を懐かしく感じています。with コロナからafter コロナへ時代が移り変わるように、人と人が画面越しにテレワークを活用して仕事をすることが、マスクを着けていることが当たり前になり、青年会議所としても会議や事業や各種大会がWEBでも参加できることが当たり前になってきました。これは一概に悪いこととは思いませんし、様々な理由で参加できない人に機会を提供する観点からは素晴らしい取り組みだと思います。反面、その弊害として実際に集まって会議をするこで得ていた。人と人が触れ合うから生まれる新しいアイデアや、何気なく話していたことから生まれる気づきというものがなくなっているように感じます。こういった考え方は時代に反していると言われるかもしれませんが、私はこの時代だからこそリアルで行うことの意義であり意味を取り戻したいと考えます。様々な大会や事業がハイブリッド開催になったことで、安易にWEB参加を決めてしまふその場にいることでしか得られなかった何かを得る機会を失っていることも多くあると思います。ハイブリッドのやり方も進化し、メタバースなどを使いまわって現地にいるかのように過ごせることも可能なのではないでしょうか。現在はまだまだそこに至っていないからこそ私は開催方法を熟慮し、青年会議所が政府と一緒に作り上げ、ブラッシュアップし続けているコンファレンス開催ガイドラインやお祭り・イベント等開催に向けた感染拡大防止ガイドラインをフル活用したうえで、会議や事業をリアルで開催していくことが、夢をより実現させる近道だと確信しています。「日本国の再建は我々青年の責務である」として立ち上つた先輩たちと同じ志をもって、新しい時代に対して我々が考える新しい価値観を提供することと我々が築かれた使命ではないでしょうか。

3. 組織の連携による組織力のさらなる強化

日本青年会議所に求められていることは何でしょうか。日本青年会議所は各地青年会議所の親団体ではなく、あくまでも連絡調整機関です。しかし、実態はどうでしょうか。実際、各LOMからそう思われているのでしょうか。答えるまでもの皆さんが感じられている通り、否だと思はれています。「日本青年会議所がやっている活動だからやらなければならない」とLOMは感じ、「日本青年会議所が理事会で審議した運動だからLOMは当然やらなければならない」と日本青年会議所は考えているのではないのでしょうか。こんな歪な関係には信頼関係は生まれませんし、逆に嫌悪感しか生まれないでしょう。本当に必要なことを互いに議論し、日本にとって、そして各地方で志を同じくする仲間にとって本当に必要なことを適切なタイミングで提供し、LOMにとって必要不可欠な連絡調整機関としての日本青年会議所を全ての会員と共有しなければ、我々に未来はないと考えます。

まずは、各LOMからの情報を確実に収集し、それを事業に展開していく情報収集能力とスピード感、両者間の

信頼関係を今以上にものにしていく連絡調整機能の強化が必須です。そのためには、地区協議会とブロック協議会の役割がとても重要になります。そして、LOMに一番近い存在であるブロック協議会は今以上のLOM支援を行い、地区協議会もそれに協力していく。さらに、日本青年会議所の事業についても、LOMからその事業の必要性や有効性を協議会が収集し事業構築に活かすことで、世の中から本当に必要とされる事業を作り上げることができると。この流れを強化することで、我々が目指すべき夢溢れる日本を実現することができると。

JCは40歳までしかできません。だからこそ、その短い活動期間の中で自分たちが夢描いた地域の未来や、日本の未来を、全力で語り合い、全力で実現させなければなりません。本気で話からこそ、その思いの周囲に伝わり実現のために大勢の人を巻き込んで進むことができます。そして、付和雷同ではなく和而不同の精神で本気で語り合う仲間が一人でも多く増えることで、さらに伝播する力を増すことができます。我々は今、青年会議所しかなかった時代から青年会議所もある時代に移行し、少子高齢化が進んで会員数が減少するという時代に直面しています。しかし、こうした掛け替えない仲間を一人でも多く増やし、一緒に日本の未来を語り合える仲間と共に歩んでいくことが日本の未来を照らす大きな力になると考えます。

4. 今こそ日本の存在感を取り戻す

日本の経済成長率は0.3%であるのに対して、ASEAN諸国に於いて一番高い国がシンガポール7.6%、一番低いフィリピンでも5.6%と大きく差をつけられています。また、アジア圏まで広げてみても、日本が最低の数字であることは周知の事実です。反面、コロナ禍で状況は一変してしまいましたが、日本へ旅行に来る外国人観光客は2010年に861万人だったものが、2019年には3188万人を超え10年弱で4倍近くまで躍進しました。これは日本の国内需要や、既存の輸出商品だけでは日本の経済成長は限界を迎えているものの、観光資源としての文化、伝統といったコンテンツや、日本が誇れる人間性がベースにある安全と安心を武器に海外に対して勝負ができるということ。新型コロナウイルス感染症による規制が各国で収束に向けて動きだし、日本でも様々なことに対して行動制限の緩和が見え始めた昨今、今こそ日本の底力をもって存在感を取り戻す時です。このチャンスを最大限に活かすためにも、JCとしての繋がりやフル活用し、我々の運動を全世界へ展開していくべきだと私は考えます。各国から求められるニーズを分析し、JCと共に展開していくことで相乗効果をもたらす、互恵互助の精神で共に歩み、日本の存在感をさらに大きくするチャンスなのです。

こういった明るい話の裏でも、暗く悲しいことが世界では起きています。それは、本年2月24日に開始されたロシアによるウクライナ侵攻です。ロシア側の主張を言えば、親ロシア派の組織が占拠しているウクライナ東部で、ロシア系の住民をウクライナ軍の攻撃から守り、ロシアに対する欧米の脅威に対抗するという「正当防衛」と言っていますが、その真偽は分かりません。確実に言えることは、この侵攻によって大勢の子どもや一般市民の尊厳が犠牲になり、大勢の人の生活と未来が侵害され、その悪影響はグローバル経済への大打撃という形で全世界に波及しました。何よりこの行為によって、主義、主張、立場は違えど、お互いを尊重し、安心・安全に生きられるという国際社会の良識が崩れているというところは世界平和の根拠を揺るがす事象です。このような時代だからこそ、我々青年会議所は国際の繋がりを活かし、この問題に対応していくべきだと考えます。人道支援はもとより、経済支援や様々な形で我々のJCと協力を実施することで、更なる国際の強い繋がりを作る機会とし、今以上に強固な関係を各国の青年会議所と構築すべきです。JCに於いて日本青年会議所の立場は、その貢献以上に強固な関係性でも、会員数も減少傾向が止まらない今、新しい貢献の形が求められているのではないのでしょうか。これからは様々な形で貢献を求められるからこそ、このような形で関係強化によって日本青年会議所のJCにおける存在感をさらに増すだけでなく、国際社会での日本の立場をさらに向上していくべきなのです。

5. 安心と安全

「国際社会は今、あらゆる武力による侵略という予想だにしない悲劇を目の当たりにしている。」この文章は本年4月23日の日経新聞の社説である。この見聞録に書かれていた一説です。我々日本人は戦争を身近に感じたことが無かったといっても過言ではありません。イラク戦争の際にも、どこか遠くの国で起きているある他人事だっただけと私は思っています。しかしながら、今回のロシアが行った武力による一方的な侵略や、北朝鮮による度重なる弾道ミサイルの発射や核開発の動きは国を守るということを改めて考える必要性を生んだと感じます。

日本は四方を海に囲まれているために、地政学的にも大陸とは違い、常に他国から侵略されるという危険を感じて過ごすことができてきました。事実、第二次世界大戦を除けば、元寇以外で他国から武力による侵略を受けたということはありません。結果的に、国を守ることの意義が他国に比べて弱いように感じます。前述のとおり意識が変わりつつある今だからこそ、国を守るということを本気で考えていかなければならないのではないのでしょうか。

ただし、日本でこの議論をするうえで全員が認識を一致させておかなければならないことがあります。それは、歴史を理解することが前提条件であるということです。第二次世界大戦中に東南アジア諸国に日本が軍国主義のもとに行つた行動を忘れずにおかなければ、国防を軍事として考えた場合、他国からはもちろんこの国民からも必ずしも受け入れられないものです。これまで、日本政府は外交という武器を手に、多角的観点から、もって戦後日本を守ってきました。そして、政府だけでは届かない部分、経済、文化といった民間外交を民間が担い行ってきました。日本青年会議所も民間の力を使い、これまでも様々な形で民間外交の一翼を担ってきました。しかしながら、今回の武力による一方的な侵略を、目の当たりにした今、本当に外交だけでこれが解決できるのか国民が真剣に考えなくてはならない岐路に立つたことなのです。確かに日本には自衛隊があり、専守防衛という精神で国民を守るために常に訓練し、国の有事の際には危険を顧みず活動してくれる方々がいます。「君たちは自衛隊に在籍中、国民から感謝歓迎されず、非難非難ばかり受けるかもしれない。(中略)しかし自衛隊が国民から感謝歓迎されるのは、外国からの武力攻撃や自然災害などで国家国民が困窮混乱している時だ。言い換えれば君たちが日陰者の時の方が国家国民は幸せなのだ。」とよく耐えて貰いたい。これは吉田茂元総理が行った防衛大学第1回卒業式での訓示です。憲法改正議論が進む昨今、自衛隊についてもその文言が今後検討されていく今だからこそ、我々も国を守るには何かを真剣に考え、今後の外交という戦いを見つめ直すことで、真の安心と安全に繋がる議論をしなければなりません。

6. 新しい当たり前を考える

日本は世界一安全な国だとよく海外の人は言います。我々にとっては当たり前ですが、夜公園を一人で歩いても、酔いつぶれて路上で寝ていても海外のように犯罪に巻き込まれにくい、自動販売機が路上に置いてあっても盗まれないこと等は海外から見れば驚くべき事例です。上下水道や道路が当たり前のように整備され、停電を気にせずに電気を使えるということも世界から見れば凄いです。このように、(中略)しかし自衛隊が国民になってしまえば、それが本来は幸せであることを忘れてしまっているのではないのでしょうか。新しい新型コロナウイルス感染症によるパンデミックにより、企業活動だけでなく、私生活に於いても様々な規制が行われ、人だけがなく子どもたちも何の前触れもなく自由を奪い去ってしまったことで、生活は一変し、安心・安全以外の当り前が崩壊してしまいました。

2年がたった今、当たり前が当たり前でなくなつた時代に我々は何ができるのか、どうやって当たり前を取り戻すのかと必死にもがいた時期は過ぎ去り、今はこの不自由な自由とどうやって付き合ひ、そして新しい形の手を見つけていく時代に入ったと言えます。こんな時代だからこそ、我々は青年会議所としてだけでなく、子育て世代としても、本当の幸せとは何なのかを真剣に問い、何が正しいのかを様々な形で提示し、その可否を取っていく必要があると考えます。

7. 最後に

青年会議所には多種多様な人財がいます。私自身本年入会12年目を迎え、様々な出会いに恵まれました。確かに世の中であつたようなマイナスイメージを持たれた行動をする人も出ましたが、圧倒的多数は違います。地域のことを真剣に考え、日本をより明るい豊かな社会にするべく夢をもつて活動するメンバーが大勢います。地域や国をより良くすることは簡単ではありません。簡単ではないからこそ、自分が思い描いた夢を本気で語り、それを実現すべく付和雷同ではなく和而不同の精神で真剣に仲間と議論し、全力で突き進むことこそ我々がリーダーとして示すべき姿なのだ確信しています。多種多様な人財がいる青年会議所だからこそ実現できるのだと信じています。

我々青年会議所はこれからの自分たちの夢を真剣に語り合い、世の中に自分たちが考える理想の姿を示し、それを実現するために仲間や、様々な団体と協力し、覚悟をもって実現していかなければなりません。それこそが青年会議所の存在価値であり、我々が先輩方から受け継ぎたい大切な理念だと私は思います。その志を我々世代だけで終わらせることなく、次世代に伝え、全力で前へ進み続けることで、今後の青年会議所を今以上に価値のある団体にする事ができるのです。このように志を高く持ち、夢に向かって全力で邁進できる青年会議所だからこそ、今後も日本を明るい豊かな社会にすることができると私は確信します。



来たる、70周年

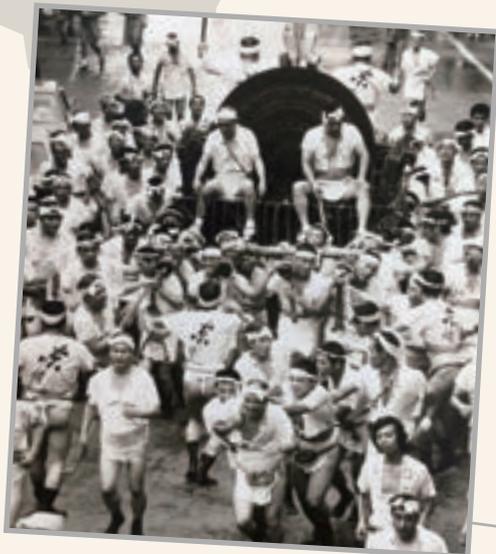
JCI飯塚の70年の歴史を振り返る

JCI飯塚が設立されてはや70年が経ちました。これまでJCI飯塚では様々な事業を市民の皆様と取り組んでまいりました。今回はその中でも3つピックアップしてお届け致します。

70周年記念ページ



※7月1日リリース



1970 山笠復活

今では夏の風物詩となっている山笠。石炭産業の衰退と時を同じくして姿を消しましたが、昭和46年7月11日市民の思いと共に飯塚市民祭として10年ぶりに復活しました。沿道に駆け付けた市民の声援に送られ、東・西の二つの山は怒涛の勢いで飯塚の街を駆け抜けました。感極まった昇き手が随所で肩を叩き合い男泣きするなど「山笠復活」は大成功をとげたのであります。



1973 SL機関車の永久保存設置

今は飯塚の風景となっているSLですが、過去の遺産となりつつあったSL機関車の永久保存設置を市民活動として盛り上げ、昭和49年6月にSLD60を約10時間かけ栢山(はぜやま)現在の勝盛公園に設置を実現しました。全長約20メートル、総重量90トンの威風堂々の姿に市民の皆様が圧倒されました。



2020

コロナ禍の シークレット花火大会

新型コロナウイルスが猛威をふるった2020年。これまでのように働けない方々やリスクを背負ってこの地域のために働いてくれている方々、また自宅での自粛生活でストレスを抱えている方々などに元気を届けるために、他団体と協力して2市1町に1000発の花火を打ち上げました。

5 YEAR IN THE FUTURE

まちのビジョンを一緒に語らせ!!

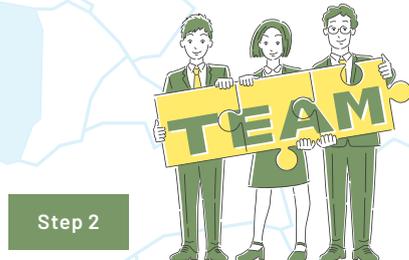
～まちの5カ年ビジョン策定～



Step 1

調査する

まちの方々を対象としたアンケート調査を行い、まちにとって何が必要なのか、ドメインを集めこのまちの見える化を図ります。



Step 2

チームを発足

このまちのビジョン策定を一緒に行う「ビジョン策定チーム」の立ち上げを行います。まちのステークホルダーの方々に参画していただきます。



Step 3

好循環を考える

このビジョンがまちに好循環の影響を与えるように、チームの中で好循環ループ図を作成し、好循環を生むための最適なビジョン、最適課題を考えていきます。



Step 4

ビジョンを言語化

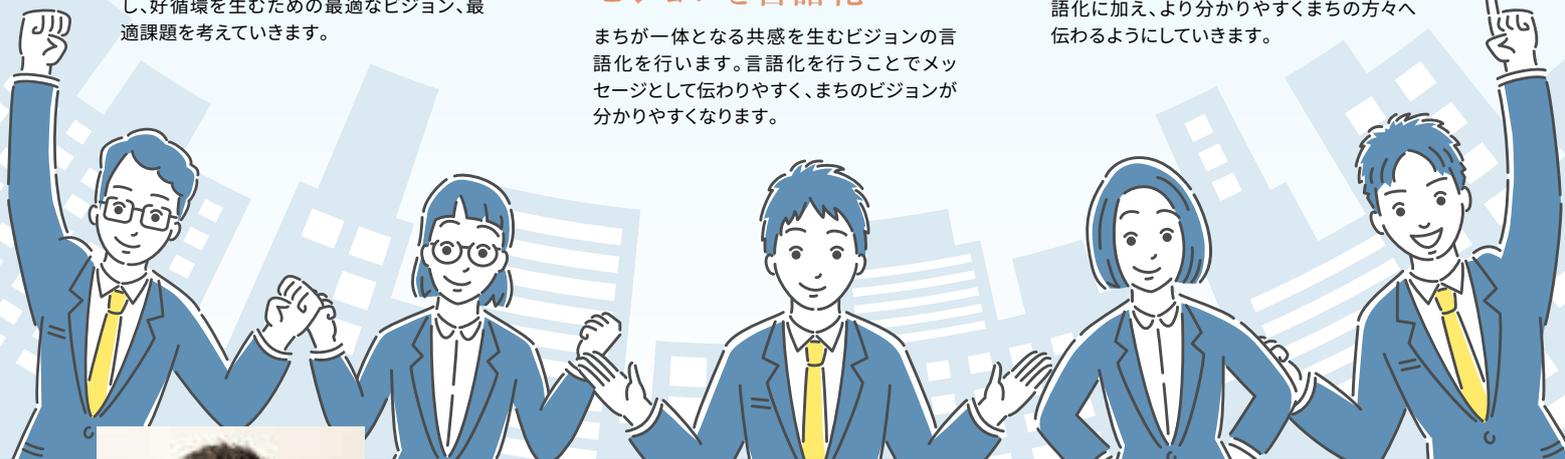
まちが一体となる共感を生むビジョンの言語化を行います。言語化を行うことでメッセージとして伝わりやすく、まちのビジョンが分かりやすくなります。



Step 5

具現化

言語化したまちのビジョンを、絵や形、色など、形式として具現化する事で、ビジョンの言語化に加え、より分かりやすくまちの方々に伝わるようにしていきます。



議長

伊藤 哲

ビジョナリーシティ会議

ビジョナリーシティ会議の発足について

私たち一般社団法人 飯塚青年会議所では、このまちの“明るく豊かな社会”実現にむけて、独自のビジョンを企画・実施し、飯塚市、嘉麻市、桂川町(以下、2市1町)での活動を行ってまいりました。2023年度では2市1町のステークホルダーと共同でまちのビジョンを策定し、同じビジョンに向かって活動や運動を行ってまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

副議長



本松 弘樹

㈱ワコー薬局
R3年4月入会

副議長



神崎 琢也

㈱麻生
R3年4月入会

サラリーマンでも JICでできる!!

■入会前と入会後のJICに対するイメージの変化はありましたか？

入会前は「社長や2代目などの事業主の集まりで飲みが多い!!」というイメージでした。また、地域的にも「信金さん」というイメージを持たれていることと、事業主ではなくサラリーマンということで時間的な余裕が作りにくく、うまく活動に参加できるのか、うまくメンバーに馴染むことができるのかという不安から正直壁があるように感じていました。

しかしながら入会してみると、メンバー全員が仕事とJICの両立に切磋琢磨していることに感銘を受けましたし、事業主だから、サラリーマンだからなどと考えている人は誰一人いないとわかり、私が勝手に壁を作っていただけだったとわかりました。

そしてなによりも理事メンバー（委員長）を経験させていただいたことが転機となり、仕事においても物事の本質を考えるということや論理的な思考力といったビジネスにおいても必要不可欠な力が身についたので、決して楽なことばかりではありませんでしたが、それ以上の充実感もあり、本当に委員長という職務を受けさせていただいてよかったと思っています。

■JICに入会してよかったですか？

よかったです。なぜなら、私の親



は転勤続きだったため飯塚で生活したのは高校3年間だけで、地元ではないため飯塚では幼馴染といえるような古くからの友達がいませんでした。しかし、JICに入会したことにより、30代になってからでも仕事のことやプライベートのことに関わらず相談ができた、プライベートでも交流する友達と呼べる存在に出会えたので、私はJICに入会してよかったです。

NOMURA SHOHEI

飯塚信用金庫

野村昇平

■2018年4月入会
2020年度
総務例会委員会委員長



あの有名 文具店も JIC出身!!

■JICのメリットはなんだと思いますか？

出逢いと一生涯の友達ができることだと思います。JICを卒業してからも集まり、仕事やプライベートのことなど気を使うことなく付き合い合うことができる仲間が持てるのは、他の団体ではなかなかないことだと思います。自身で会社を立ち上げた人、サラリーマン、2代目や3代目といった後継者の人など、みんなそれぞれ立場が違い、職種も違うからこそ、なかあった時にいろいろな相談ができ、活きた情報を入手できます。

また、先輩方との繋がりもでき、情報交換などをさせていただくなかで学ばせてもらえることもたくさんあります。

可能であるならばJIC在籍年数を多くもつことで、いろいろな人と関わる時間を長く持つことができ自己成長にも繋がると考えます。

■JICを通して自分自身が成長したと思うところはありますか？

当たり前のことかもしれませんが、自分の気持ちをもって行動しないと人を動かすことはできないと実感させられ、考える機会をもらえたからこそ自分自身の成長や自信につながり、物事に突き進む力に代えられることをJICで身に付けさせてもらえたと思います。会社で些細なことでも始める時や、人をお願いすることをす



TAMAOKI KAZUTAKA

株式会社 玉置
代表取締役
玉置一貴

■2010年7月1日入会
JIC歴8年
(2018年度理事長)

る時にも、自分の気持ちの的確に相手に伝え、相手が動きやすい環境を作れるよう心がけています。





(一社)飯塚青年会議所 大解剖

JCを知る、
JCに学ぶ
飯塚青年会議所という
組織がわかる

JCI飯塚の事業や、そこで活躍する人を紐解いていく。JCI飯塚について詳しくわかる!

飯塚青年会議所への質問

Q、青年会議所ってどんな組織なの？

20歳から40歳までの志の高い青年経済人によって『奉仕』『修練』『友情』という三信条のもと、『明るい豊かな社会』の実現を目指す青年団体、それが青年会議所です。飯塚青年会議所では37歳まで入会することが出来ます。全国には684の青年会議所があり、28,998人の会員が所属しております。飯塚青年会議所も84名のメンバーがいます。

Q、入会するとどんなメリットがあるのか？

青年会議所に入会すると様々な価値観をもった仲間たちと活動する事が出来、一生付き合える友情をはぐくむことが出来ます。また、活動や事業を通して、自己成長をすることが出来る機会が数多く存在します。

Q、どんな人達が入っているの？

飯塚青年会議所には様々な業種の方がいます。製造・小売業、建設設備業、サービス業、医療関係、土業などの方々が在籍されています。

入会までの流れ

入会申し込み	必要書類を提出します。
理事会審議	理事会にて仮入会(準会員)を審議。
仮入会(準会員)	仮入会(準会員)期間は3ヶ月。オリエンテーション、例会、委員会出席、理事会傍聴などにご出席ください。
理事会審議	理事会にて仮入会(準会員)期間の出席状況などをチェックし、正式入会を審議。
正式会員	晴れて、正会員です。例会にてJCバッジの授与式があります。
正式配属	各委員会に正式メンバーとして配属されます。共に頑張りましょう!

入会する事で経験出来る会議

【委員会】

1年間所属して活動する委員会があります。委員会内で定期的に集まって会議を行い、活動や事業の打ち合わせがあります。

【理事会】

組織の意思決定機関となる場です。メンバーから選ばれた理事が参加することができ、発言権や投票権を使って組織としての方向性を決めていきます。準会員期間の間に参加することが出来ます。

【例会】

毎月開催される会で、メンバーの意識統一、学びのきっかけを作る、事業のトレーニングなどを目的としたための会となります。

【総会】

飯塚青年会議所としての重要な決定事項を決める場であり、青年会議所の最高決議機関となります。

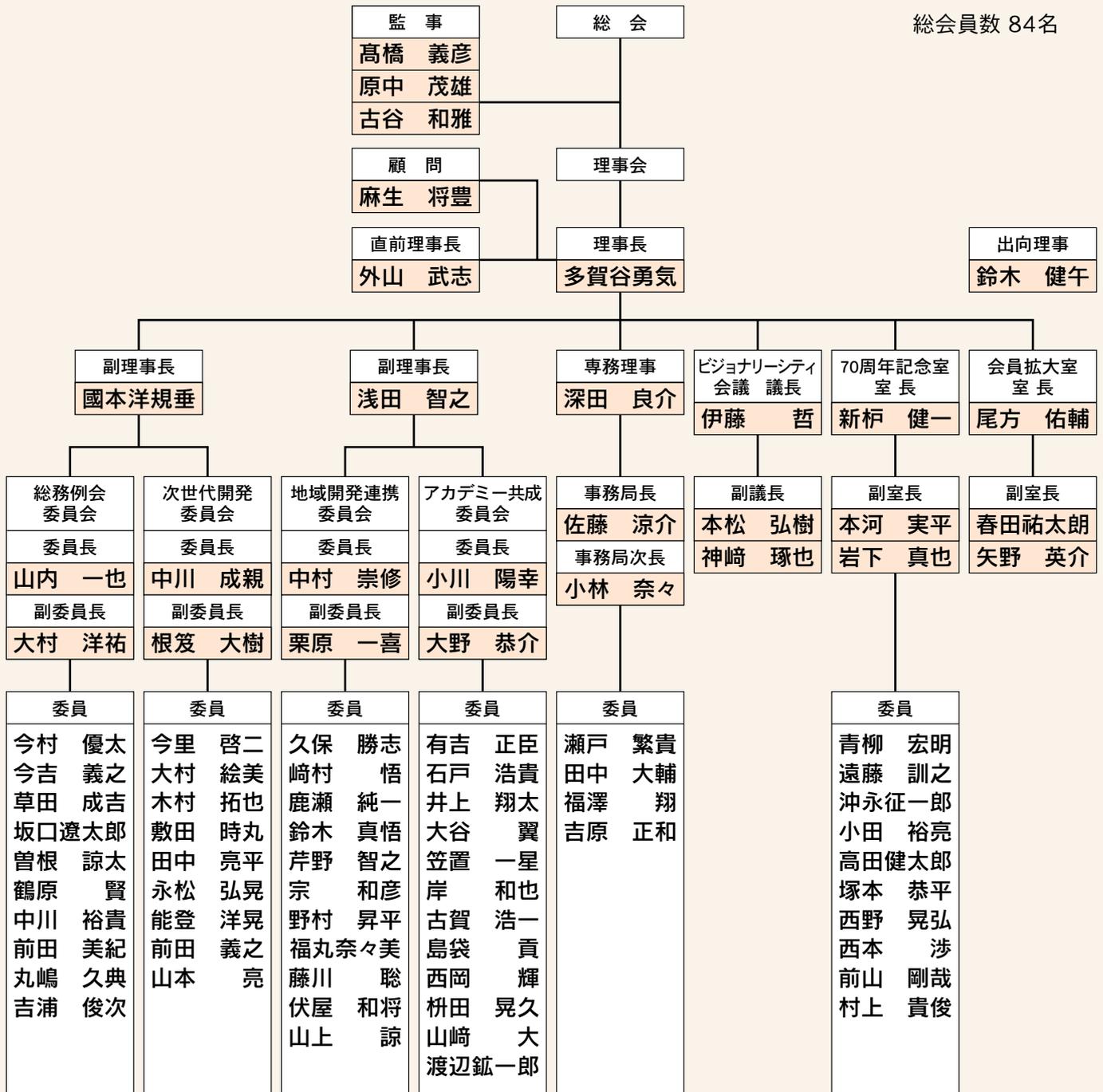
JCI 飯塚
会員拡大
詳細は
コチラ!





2023年度 組織図

総会員数 84名



2023年度出向者

日本青年会議所

- 麻生 将豊 2023年度 会頭
- 鈴木 健午 渉外委員会 委員長
- 今吉 義之 渉外委員会
- 鹿瀬 純一 渉外委員会
- 有吉 正臣 渉外委員会

- 古賀 浩一 渉外委員会
- 今村 優太 渉外委員会
- 鶴原 賢 渉外委員会
- 草田 成吉 渉外委員会
- 尾方 佑輔 渉外委員会

- 敷田 時丸 渉外委員会
- 原中 茂雄 渉外委員会
- 伊藤 哲 渉外委員会
- 深田 良介 持続可能な国際開発委員会
- 小林 奈々 持続可能な国際開発委員会

- 永松 弘晃 渉外委員会
- 小川 陽幸 渉外委員会
- 石戸 浩貴 渉外委員会
- 伏屋 和将 渉外委員会
- 山崎 大 渉外委員会

- 大野 恭介
- 中川 成親
- 栗原 一喜
- 沖永 征一郎
- 木村 拓也

福岡ブロック

- 原中 茂雄
- 福丸 奈々美
- 佐藤 涼介
- 伏屋 和将
- 山崎 大

- 永松 弘晃
- 小川 陽幸
- 石戸 浩貴
- 根笈 大樹
- 岩下 真也

- 大野 恭介
- 中川 成親
- 栗原 一喜
- 沖永 征一郎
- 木村 拓也



一般社団法人 飯塚青年会議所
2023年度 理事メンバー

	<p>理事長</p> <p>多賀谷 勇気</p> <p>(一社)ハッピーズマイルホールディングス H21年12月入会</p>
--	---

	<p>直前理事長</p> <p>外山 武志</p> <p>(株)KMG H21年4月入会</p>
--	---

	<p>顧問</p> <p>麻生 将豊</p> <p>麻生商事(株) H23年9月入会</p>
---	---

	<p>副理事長</p> <p>國本 洋規垂</p> <p>マルマツ産業(株) H30年8月入会</p>
---	--

	<p>副理事長</p> <p>浅田 智之</p> <p>ダイワ印刷(株) H24年7月入会</p>
--	--

	<p>専務理事</p> <p>深田 良介</p> <p>(株)深田環境衛生 H26年5月入会</p>
---	---

	<p>監事</p> <p>高橋 義彦</p> <p>福岡県議会議員 H27年10月入会</p>
---	--

	<p>監事</p> <p>原中 茂雄</p> <p>(株)KRC H23年12月入会</p>
--	---

	<p>監事</p> <p>古谷 和雅</p> <p>(株)古谷金物店 H23年5月入会</p>
---	--

	<p>出向理事</p> <p>鈴木 健午</p> <p>鈴与興業(株) H29年11月入会</p>
---	--

70周年記念室

	<p>室長</p> <p>新 戸 健 一</p> <p>メットライフ生命保険(株) H25年8月入会</p>
---	---

	<p>副室長</p> <p>本 河 実 平</p> <p>(株)本河住建 H26年4月入会</p>
---	--

	<p>副室長</p> <p>岩 下 真 也</p> <p>(株)イワデン R4年7月入会</p>
--	---

アクションプラン
年間フレーム



[創立70周年記念式典・記念事業の企画・実施]

詳しくはコチラ↑

	<p>青柳 宏明</p> <p>(南)大丸装飾工業 R1年7月入会</p>
---	--

	<p>遠藤 訓之</p> <p>親和電設工業(株) H26年8月入会</p>
---	---

	<p>沖永 征一郎</p> <p>飯塚伐採(株) R4年11月入会</p>
---	--

	<p>小田 裕亮</p> <p>(株)明豊舗道 H29年12月入会</p>
--	--

	<p>高田 健太郎</p> <p>たかた呉服店 R1年11月入会</p>
---	---

	<p>塚本 恭平</p> <p>(株)ホー一堂 ひかり調剤薬局 R1年12月入会</p>
---	---

	<p>西野 晃弘</p> <p>医療法人ユアアイ 西野病院 R4年12月入会</p>
---	---

	<p>西本 涉</p> <p>西本工務店 H31年4月入会</p>
---	--

	<p>前山 剛哉</p> <p>(株)前山産業 H29年8月入会</p>
--	---

	<p>村上 貴俊</p> <p>村上ホーム(株) R2年10月入会</p>
---	--

ビジョナリーシティ会議

	<p>議長</p> <p>伊 藤 哲</p> <p>(株)WORKERS CARE H30年10月入会</p>
---	--

	<p>副議長</p> <p>本 松 弘 樹</p> <p>(株)ワコー薬局 R3年4月入会</p>
---	--

	<p>副議長</p> <p>神 崎 琢 也</p> <p>(株)麻生 R3年4月入会</p>
--	---

アクションプラン
年間フレーム



[ビジョナリーシティ会議の発足・まちの5ヵ年ビジョンの策定・実施]

詳しくはコチラ↑

事務局



事務局長

佐藤 涼介

(有)佐藤商店
R4年1月入会

事務局次長



小林 奈々

(株)プリンス興商
H27年9月入会

[台東国際青年商會との継続的な国際交流]

アクションプラン
年間フレーム



詳しくは
コチラ➡



瀬戸 繁貴

SHY(株)
R4年12月入会



田中 大輔

(株)BONDS
R3年10月入会



福澤 翔

(株)朝日化成
R3年1月入会



吉原 正和

高橋義彦事務所
H27年10月入会

総務例会委員会



委員長

山内 一也

(有)ネットワーク
R3年11月入会

副委員長



大村 洋祐

(一社)ハートフルラボ
ほなみ赤鶏炭焼き屋
H26年4月入会

[厳正かつ厳粛な総会の企画・実施／例会の厳粛なる式典の企画・実施]

アクションプラン
年間フレーム



詳しくは
コチラ➡



今村 優太

(有)やしま不動産
R2年10月入会



今吉 義之

(株)パーソナルネット
H21年7月入会



草田 成吉

医療法人社団 親和会
R2年4月入会



坂口 遼太郎

喜怒哀楽酒場 うまづら
H31年4月入会



曽根 諒太

福岡県議会議員
江藤秀之事務所
R3年8月入会



鶴原 賢

鶴原液化ガス(株)
H30年7月入会



中川 裕貴

なかかわ証券
アドバイザー(株)
H26年4月入会



前田 美紀

(株)ニッソー
H27年11月入会



丸嶋 久典

(株)親和園
H29年5月入会



吉浦 俊次

(株)ヨシウラ
H28年4月入会

次世代開発委員会



委員長

中川 成親

(株)best partner
MCC訪問介護ステーション
R4年9月入会

副委員長



根笈 大樹

(株)メディカルラボ
R4年6月入会

[青少年育成事業の企画・実施]

アクションプラン
年間フレーム



詳しくは
コチラ➡



今里 啓二

(有)サンナイ調剤薬局
R3年4月入会



大村 絵美

(株)KRC
R1年9月入会



木村 拓也

T.K Garage
R4年11月入会



敷田 時丸

福岡観光バス(株)
R1年8月入会



田中 亮平

(株)片島屋
R1年8月入会



永松 弘晃

(株)福岡銀行
R4年4月入会



能登 洋晃

(有)かいた環境開発工業
H28年11月入会



前田 義之

(株)前田商事
R3年11月入会



山本 亮

SHY(株)
R4年12月入会

会員拡大室



室長

尾方 佑輔

Life Time Supporter
R1年7月入会

副室長



春田 祐太郎

(株)春田建設
H31年4月入会

副室長



矢野 英介

中華そば麵すけ
R3年11月入会

アクションプラン
年間フレーム



[感謝の輪を広げる会員拡大]

詳しくはコチラ↑

地域開発連携委員会



委員長

中村 崇修

NPO boisoan
R1年8月入会

副委員長



栗原 一喜

(株)久栄
R4年10月入会

[持続可能な明るく豊かな地域の開発についての事業の企画・実施]

アクションプラン
年間フレーム



詳しくは
コチラ➡



久保勝志

飯塚信用金庫店内支店
H30年4月入会



崎村 悟

ふみな工業(株)
R1年7月入会



鹿瀬純一

(株)東海エース保険
R3年6月入会



鈴木真悟

(株)鈴木建設
R3年11月入会



芹野智之

たこ八
R1年7月入会



宗 和彦

やしま整形外科
H23年4月入会



野村昇平

飯塚信用金庫
福岡地行支店
H30年4月入会



福丸奈々美

なつきの司法書士
行政書士事務所
R3年12月入会



藤川 聡

BoschCarService
藤川自動車株式会社
H29年7月入会



伏屋和将

明治安田生命保険
相互会社
R4年1月入会



山上 諒

(株)アイックス福岡
R3年5月入会

アカデミー共成委員会



委員長

小川 陽幸

オガワ設備工業(株)
R4年5月入会

副委員長



大野 恭介

CLUB ELFIN
R4年8月入会

[アカデミー共成事業の企画・実施]

アクションプラン
年間フレーム



詳しくは
コチラ➡



有吉正臣

(株)筑豊調味
R2年4月入会



井上翔太

(株)西日本シティ銀行
R4年12月入会



石戸浩貴

石戸産業(株)
R4年6月入会



大谷 翼

NPO法人LIGアカデミー
R3年5月入会



笠置一星

(株)笠置建工
R2年4月入会



岸 和也

(株)岸クリーン工業
R3年4月入会



古賀浩一

(株)セントコーポレーション
H22年7月入会



島袋 貢

ダイニングパーク
R2年12月入会



西岡 輝

友信建設(株)
R4年12月入会



栞田晃久

栞田法律事務所
H26年8月入会



山崎 大

(株)きど葬祭
R4年4月入会



渡辺 紘一郎

社会福祉法人
嘉穂郡社会福祉協会
H30年4月入会

MESSAGE

今地域に伝えたい想い



一般社団法人 飯塚青年会議所
2022年度 第69代 理事長

外山武志 TOYAMA TAKESHI

2022年度理事長総括

昨年のスタート時も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を多大に受けての船出となりました。当初計画していたことが実行出来るのか心配しておりましたが、withコロナへの社会の移行に伴い、私たちの活動も徐々に行えるようになったことはこの上なく幸いなことでした。

直近2年間に飯塚青年会議所に入会したメンバーは、今までは当たり前を経験できるはずだった多くの事業や活動を経験することが少なかったこともあり、再び以前のような事業を行えたのは大変意義があったことだと実感しています。昨年体感とした学んだ経験が自身の成長へと繋がっていくことと思います。

青年会議所には「事業が人を育てる」という考えがあります。この事業を当初計画していた通りに、またコロナ禍の中、変更や対応を迫られても臨機応変にそして力強く邁進してくれた各委員長の皆様には頭の下がる思いでいっぱいです。心より感謝いたします。皆様のMESSAGEが私たちの愛するこの地域の方々に必ず届いたと信じています。昨年私たちがおこした変化への波紋が地域の皆様に共感という広がりを見せ、今年以降必ずより良い地域へと成長するきっかけになることをご祈念いたします。

最後になりますが、一般社団法人 飯塚青年会議所にご支援、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。そして何より、私たちの事業に足を運んでいただきました来場者の皆様、お子様を青少年事業に参加させていただいた保護者の皆様に深く御礼申し上げます。私からの総括とさせていただきます。

1年間の活動報告

1



1月／新春祝賀会

January

2



5月／まちづくり事業

May

3

4

5

6



6月／総会

June



7月／創立記念式典

July

7

8

9



10月／アカデミー事業

October



10月／ひとづくり事業

October

10

11

12



11月／家族例会

November



11月／年末式典

November

2022年度 卒業生の声

2022年度は12名のメンバーが卒業しました。



福澤 慶之 上嘉穂貨物自動車運送(株) 専務取締役 S57. 8.1

飯塚青年会議所に16年在籍していました。入会した当時は一番年下でやっていけるか不安がありました。が、若く入った分、先輩たちから社会人としてのマナーや考え方を早い時から学ぶことができました。そして、青年会議所活動で一番得たものは人と人の繋がり、だと感じています。青年会議所は参加すればするほど同じ青年経済人の友人ができ、見聞を深めることで自身のレベルアップにつながります。何よりこの先付き合っていく友人をたくさん作ることが出来ました。今年で卒業してしましますが、青年会議所に入っていなかったら、今の自分はいなかったと思います。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。



小山内 弘治 小山内工業 代表 S57. 6.22

私は飯塚青年会議所に入会して5年半のJC生活を送らせて頂きました。青年会議所は地域にどんなことをやっているかと簡単に考えて入会しましたが、それ以前の取り組み、人との縁、本当に様々な経験をさせて頂きました。一つの事業に対して様々な意見を出し合い、人と人の協力があり、本当に人と人の繋がりがいかに大切なことかを改めて気づかされました。これからも青年会議所で得たものを生かして更に自分自身の成長に繋がれたらと思います。入会から卒業まで出会った方々との思い出、経験、本当に有り難うございました。



大庭 みほ子 (株)コスモスハウス aruk-ある暮らし- 店長 S57. 2.18

在籍中にどれだけ活動の時間を作れるか、仕事の調整をし事業や例会、会議に参加することで卒業した後でその時間は全て自分の時間になる、会社の事を考える時間に使えるようになる、と教えてくれた先輩がいっぱいいました。時間を確保する為には家族や従業員とコミュニケーションを取り理解を深め、また委員会や活動でもお互いを理解し支え合える仲間を作っていく事が重要になります。なかなか簡単には行きませんが、JC IIに所属していなければ時間の使い方をこれほど考えず、日々をなんとなく過ごしていたかもしれません。また、全く違う業種の方々とも知り合えた事で新たな発見やアイデアにも恵まれ、私にとってそれは大きな財産です。



元野木 正比古 (株)元野木書店 専務取締役 S57. 7.3

私は飯塚生まれですが、20年ぶりに飯塚に戻りました。戻ってきて実家の稼業を営んでいると同年代の知り合いがしばらくできませんでした。同級生が何をしているか情報も無く、商店街では先輩ばかり。どこに行けば同世代に会えるのだろうか動いた結果、青年会議所にたどり着きました。入ってみると、どこにこんなエネルギーのある人たちが隠れていたのだろうかと思うほどの集まりでした。普段の自分の生活では出会わないようなメンバーとも出会えて刺激を受けました。

40歳で卒業となりますが、ここで終わりではありません。この集まりで出会ったメンバーとこれからの飯塚を作っていくことを楽しみたいです。

2022年度 新入会員の声

2022年度は16名のメンバーが入会しました。



岩下 真也 (株)イワデン R4年7月入会

飯塚青年会議所に入会させていただき学べた事は、JC活動・事業に参加していくなかで、普段関わることの少ない他業種・地域内外の方々と交流させていただき、その過程の中で、すごく貴重な経験をする事が出来ました。その中でも私が感じた事は「気づき」を学べた事です。

今までだと何気なく過ごしている事が多くありましたが、物事の本質を見抜く力(気づき)が備わる事によって、日々の中には凄く大切な事がいっぱいあるんだ!と思えるようになりました、またそこに携わっている方々へ敬意や感謝の気持ちも芽生えました。まだまだ自己成長の途中ですが、経験を活かし芽生えを大きく成長させて大きな感謝へ繋げていき、「感謝の輪」を広げていきたいと思います。



栗原 一喜 (株)久栄 R4年10月入会

飯塚青年会議所に入会して、半年が経ちます。短い期間ですが、多種多様なメンバーの方と接することで、多くの学びがありました。それは「メリハリ」の大切さです。ひとつの事業を企画・運営するまで、徹底的に話し合い、全メンバーが納得した上で決断し、一致団結して行動に移す。一方、お酒を飲みながら、ざっくばらんに話すことで、新たなアイデアや頭がスッキリと整理できることもありました。今まで、私は一方に偏りがちでした。力を注ぐところ、抜くところ、この「メリハリ」は、JCI活動だけでなく、家業にもプライベートにも大切と感じました。自分なりのメリハリを保ちつつ、JC生活を送っていききたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



小川 陽幸 オガワ設備工業(株) R4年5月入会

飯塚青年会議所に入会し、最初に驚いた事はメンバーの皆さんが必死でこの町の為に何が出来るか考えている姿に感銘と刺激を受けました。他業種の方々が集まる青年会議所では新たな気付きや学びがあり、自分自身の可能性も広がりました。また、青年会議所は様々な事にチャレンジできる場所でもあり、人々として成長する上で大切な事を得る最適な場所だと確信しております。

他業種とのつながり、地域への貢献、自己成長をお求めの方、仲間になりましょう!



中川 成親 (株)best partner MCC訪問介護ステーション R4年9月入会

私は6月から入会し半年程度経ちますが、これまで多くの事を学ばせていただきました。入ったばかりでなにも分からない私に、メンバーの皆様が暖かく接していただき、また、困っている時には助けていただきました。来年から委員長をおおせつかりましたが、地域の方々とより良いものを創り上げていきたいと思っております。



(一社)飯塚青年会議所は、
あなたの力を求めています！

会員募集中

青年会議所は20歳から40歳までの情熱ある青年の団体です。

青年会議所(JC)は“明るい豊かな社会”の実現を理想とし、時代の担い手たる責任を持った20歳から40歳までの、指導者たらんとする青年の団体です。私たちは現在、国内684余りの都市に約28,998人の会員を擁し、全世界130カ国の国及び地域に活動拠点があります。青年会議所の事業目的は“社会と人間の開発”です。私たちは市民社会の一員として、市民の共感を求めて社会開発計画に基づいた活動を行い、「自由」を基調とした民主的な指導能力の開発を推し進めています。

対象者：飯塚市、嘉麻市、桂川町に住所または勤務地を有する20歳から37歳までの健全な方で
あれば男女は問いません。詳しくは下記(一社)飯塚青年会議所事務局までお問い合わせください。

飯塚青年会議所
ホームページは
こちら！



飯塚青年会議所
Facebookは
こちら！



飯塚青年会議所
Instagramは
こちら！



お問い合わせ先

〒820-0033 福岡県飯塚市徳前25番地 飯塚卸商協同組合会館2F TEL 0948-23-0292 FAX 0948-24-3471
E-mail info@iizuka-jc.com http://www.iizuka-jc.com/ 〈製作：2022年度スポーツのまち特別室〉